

御岳県立公園  
御嶽山ビジターセンター（仮称）  
整備基本計画

令和2年(2020年)3月27日

長野県

## 1 御岳県立公園御嶽山ビジターセンター（仮称）の整備に向けて

### 【御岳県立公園の概要】

御岳県立公園は長野県南西部に位置し、木曾郡木曾町及び王滝村の各一部に位置する。御嶽山の山頂部とその山裾に広がる東部の開田高原、南東部の寒原高原、倉越高原、御岳高原、御嶽山西部及び三浦貯水池周辺の山麓部一帯を含む。

御嶽山は3,067mの独立峰で東西1km、南北4kmにも及ぶ長い頂稜を持つ活火山である。その広い山頂部には頂上の剣ヶ峰をはじめ、継母岳、継子岳、摩利支天山、王滝頂上の5つの峰と5つの火口湖、1つの火口原が存在する。火口湖のうち二ノ池は、日本最高所の湖と言われている。信仰の山、活火山としての地形、高山植物、山頂部からの中央アルプス等の美しい景色を楽しめる。

御嶽山東部の麓には、そばの産地や木曾馬のふるさととして有名な開田高原があり、キャンプ場やスキー場、温泉施設を利用しながら四季折々の御嶽山の景色が楽しめる。

南東部の寒原高原、倉越高原、黒沢口・三岳は御嶽山や中央アルプスの景色を堪能できるとともに、油木美林と呼ばれる木曾ヒノキの天然林を見ることができる。また、古くからの信仰の地として数多くの霊場がみられ、黒沢口は御嶽山で最も古い登山口と言われている。

御岳高原でも同様に多くの霊場がみられ、清滝・新滝の雄大な滝は信者の修行場とされている。そのほか、宿舎やキャンプ場、スキー場、温泉施設が整備されており、四季を通じて様々なレジャーに利用されている。

### 【現状と課題】

王滝村御嶽山王滝登山口の利用客数は、平成26年(2014年)9月の御嶽山噴火災害以降、噴火前の3割程度(観光地利用者統計調査結果・平成30年実績)にとどまっている。

また、噴火災害による被災のため、御嶽山王滝口～剣ヶ峰までの間(往復約5時間5分)に有人施設は皆無となり、登山者をサポートする施設がない状況となっている。

近年の自然公園の利用形態として、自然とのふれあいを求めるニーズが高まるとともに、インバウンドによる多様化傾向がある。一方で、御岳県立公園には利用拠点となる施設が整っていないため、優れた自然の景観地を保護するとともに、その利用の増進が十分に図られているとはいえない状況にある。

### 【整備に向けて】

このような現状に対し、県では自然公園利用者や登山者への情報提供及び学習拠点として、御岳県立公園御嶽山ビジターセンター（仮称）を整備し、御岳県立公園の利用推進を図るとともに、地元関係者と協力し復興と地域の活性化に取り組む。

この整備基本計画は、木曾町、王滝村、有識者、地域住民等で構成される御嶽山ビジターセンター建設専門委員会がとりまとめた御嶽山ビジターセンター基本構想（以下「基本構想」という。）を踏まえ、県が整備する御岳県立公園御嶽山ビジターセンター（仮称）の基本的な考え方を示すものである。

なお、基本構想に基づき、木曾町が木曾町御嶽山ビジターセンター（仮称）の整備を予定している。

### 【基本構想における施設の基本コンセプト】

#### 御嶽山を知り、火山を理解し、次世代につなげる

##### ○御嶽山を知る

- ・火山のリアルタイム情報や観光情報等、御嶽山に関する情報の提供
- ・御嶽山がもたらす文化・歴史・豊かな自然の魅力を広く発信

##### ○火山を理解する

- ・火山に関する基本的な知識、過去の噴火災害など学び、火山を理解
- ・火山防災に関する知識の普及・啓発、取組を推進

##### ○次世代につなげる

- ・噴火災害の記録と記憶の後世への伝承
- ・御嶽山を中心とした火山と共生する地域の取組（観光地域づくり、御嶽山火山マイスターの活動など）の拠点

## 2 御岳県立公園御嶽山ビジターセンター（仮称）の役割（基本構想における施設の役割区分による整理） 御岳県立公園御嶽山ビジターセンター（仮称）には、次のような役割が求められている。

(1) 御岳県立公園御嶽山ビジターセンター（仮称）と木曾町御嶽山ビジターセンター（仮称）共通の役割  
展示内容は、限られた展示スペースを有効活用し、効率的・効果的な展示とするため、御嶽山に近いことを活かした独自の展示を行うなど、麓にある木曾町御嶽山ビジターセンター（仮称）と相乗効果が生み出されるよう違いを明確にする。

### ① 過去の災害の記録と記憶の伝承、火山防災啓発

- ・ 昭和 54 年（1979 年）10 月 28 日、中規模水蒸気噴火「有史以来初の噴火」
- ・ 昭和 59 年（1984 年）9 月 14 日、「長野県西部地震とそれに伴う山体崩壊（御嶽崩れ）」（死者 14 名、行方不明者 15 名）
- ・ 平成 26 年（2014 年）9 月 27 日、「御嶽山噴火による災害」（死者 58 名、行方不明者 5 名）
- ・ ハザードマップ、噴火シナリオ、想定される被害、噴火時の避難行動、平常時からの準備など噴火の危険性と適切な避難行動を周知啓発
- ・ 御嶽山火山マイスター等の活動・交流の場として、情報を発信、学びの場を提供

### ② 火山のリアルタイム情報や登山道情報等の登山者向け情報発信

- ・ 気象庁発表の御嶽山に関する最新火山情報を発信
- ・ 御嶽山のライブカメラ（田の原、三岳黒沢、奥の院など）映像
- ・ 気象情報（天気予報、気温、湿度、降水確率、降雨量、風向風速など）
- ・ 入山規制、通行止情報、開花情報、野生生物出没情報、山小屋営業情報など

### ③ 御嶽山が育む文化・歴史・豊かな自然の魅力を発信、校外学習としての利用促進と受け入れ

- ・ 御嶽山の成り立ち・歴史、最も西に位置する 3,000m 峰、東西 1 km、南北 4 km の活火山
- ・ 木曾川水系の源流となる御嶽山、国内最高所の火口湖、多くの滝、温泉など豊富な水資源
- ・ 御嶽山に暮らす生き物たち（特別天然記念物ライチョウ、コマクサなどの高山植物、ヒノキ美林など）
- ・ 古くから信者を全国から集める霊峰御嶽山、山岳信仰の歴史、数多くの霊場・行場
- ・ 御嶽山の裾野に広がる自然環境をフィールドに自然観察、ウォーキング、登山などの自然体験

## (2) 御岳県立公園御嶽山ビジターセンター（仮称）独自の役割

御岳県立公園の魅力発信と周辺の観光案内に重点を置き、火山防災知識の普及啓発及び自然環境の保全と適正な利用を促進する。

### ① 御岳県立公園内の優れた風致景観（火山、火口湖、高山植物、湿原等）の案内や解説、体験の促進、御岳県立公園の魅力発信と適正利用の促進

- ・ 御嶽山三合目、2つの名滝「清滝」「新滝」水量豊富で落差が大きい、御嶽行者の水行場
- ・ 御嶽山七合目、「田の原天然公園」県天然記念物の高層湿原、ハイマツ帯遊歩道、展望台
- ・ 御嶽山からの山岳眺望、御来光、星空、雲海などの高山帯自然美
- ・ 御嶽山火山マイスター等の活動・交流の場として、情報を発信、学びの場を提供
- ・ 自然公園利用マナー啓発（野生生物にエサを与えない、喫煙場所以外での喫煙禁止など）
- ・ 火山へ登山する際のマナー啓発（火山・気象情報等の収集、規制区域等の確認、登山計画書の提出、ヘルメットの着用、火口付近に長時間滞在しないなど）
- ・ 登山装備（ヘルメット、レインウェア、ヘッドライト、地図など）等の実物展示と販売
- ・ 公園利用者・登山者の休憩所、荒天・災害時の緊急的な避難場所
- ・ 王滝村防災アプリ「おんたけ王滝」を活用

### ② 御嶽山地域を中心とした観光施設や見どころへの案内

- ・ 御嶽山一合目～八海山神社、歴史が香る変化に富んだ山麓の道「御嶽古道」
- ・ 御嶽山一合目「御嶽神社里宮」、御嶽山二合目「御嶽山資料館」（休館中：詳細は王滝村教育委員会）
- ・ 御嶽山四合目に広がる高原に位置する広大な「おんたけ銀河村キャンプ場」など
- ・ 長野県西部地震で生まれた幻想的で美しい天然の湖「自然湖ネイチャーカヌーツアー」など
- ・ 愛知用水の水源として誕生した御岳湖（牧尾ダム湖）「おんたけ湖カヌーツーリング」など
- ・ イベント情報（ウォーキング大会、マラソン大会、マウンテンバイク大会、キャンプイベントなど）

### 3 目的・整備方針

御岳県立公園御嶽山ビジターセンター（仮称）は、「いのちを守る」「火山を学ぶ」「自然とふれあう」を主な目的とし、自然公園の「玄関口」として人と自然をつなぐ拠点を目指す。

木曽町御嶽山ビジターセンター（仮称）とともに、効率的・効果的な展示とするため、今後の調整により、木曽町御嶽山ビジターセンター（仮称）で整備することもありうる。

- 「いのちを守る」
  - ・ 御嶽山の今（火山活動、規制情報、気象情報、自然情報等）を利用者に提供
  - ・ 噴火の危険性と適切な避難行動を周知、火山防災知識の普及啓発
  - ・ 公園利用者・登山者の休憩所、荒天・災害時の緊急的な避難場所
- 「火山を学ぶ」
  - ・ 火山の恵みと災い両面を持つ火山の魅力を知り、理解を深める
  - ・ 火山成立の歴史、過去の災害記録と記憶をつなぎ、未来を考える
  - ・ 御嶽山火山マイスター等の活動を通じて、学びの機会を提供する
- 「自然とふれあう」
  - ・ 御岳県立公園の「玄関口」として人と自然をつなぐ
  - ・ 御嶽山の自然や文化を知り、自然体験を通じて、深い感動へと導く
  - ・ 御嶽山は古来山岳信仰の山、自らと向き合える落ち着いた場（空間）を提供

#### （1） 環境、景観、防災に配慮した施設を目指す

- 断熱・日射、自然採光、節水等を考慮することにより省エネルギーを徹底
  - ・ 照明のLED採用なども検討
- エネルギー供給設備の効率化及び再生可能エネルギー・蓄電池等の導入について検討し、環境への負荷を低減し自然公園施設のRE100を推進
  - ・ 災害時の非常電源確保にも配慮
- 御嶽山を望むことができ、御嶽山の山容、周辺環境との調和に配慮
  - ・ 御嶽山眺望を意識した施設レイアウト、三笠山や田の原天然公園等との回遊性に配慮
  - ・ 王滝山頂等御嶽山からの景観にも配慮
- 地震、火山噴火などの災害時に緊急的な避難場所となるよう配慮
  - ・ 耐震や噴石対策に配慮
- 厳しい気象条件（豪雨、強風、積雪、寒冷等）に耐えられるよう配慮
  - ・ 豪雨時の雨戸、冬季閉館時の囲い、除雪、排水などに十分な配慮
- 必要な機能は整備しつつ、維持管理費用が最小限に抑えられるよう配慮
  - ・ 省エネルギーやライフサイクルコストに配慮し、シンプルな設備を目指す

#### （2） 自然公園の玄関口として「訪れたい」施設を目指す

- 親しみやすく、明るく、開放的で立ち寄りたくなるデザイン等に配慮
  - ・ 御嶽山の豊かな自然や眺望を活かしたオープンスペースで誰でも自由に立ち寄り、休憩し、様々な情報を収集できる場となるよう配慮
  - ・ 自然公園の玄関口にふさわしい、親しみやすい施設愛称やロゴマークなども検討
- 自然公園利用者、登山者が気軽に集い、憩えるスペースに配慮
  - ・ 休憩、飲食（軽食）、物販（登山装備、防災用品、飲料、携行食等）スペースを設ける
  - ・ 建物の内外を一体的な整備を検討
- 自然公園利用者、登山者の利便性向上を踏まえた動線の確保、レイアウトに配慮
  - ・ 周辺の登山道、遊歩道、展望台等とのつながりを意識し、人々が自然と行き来できるよう配慮
  - ・ 靴洗い場や軒下などで身支度可能なスペースの確保、緊急時に避難しやすい動線の確保に配慮
- 御嶽山の歴史や文化を踏まえた新たな観光の拠点となるよう配慮
  - ・ 華美ではない上質・高品質な観光地を象徴する施設となるよう配慮
- 開館期間の閉館時においても、トイレのみの利用可能、火山、気象、規制等の情報を提供
  - ・ 屋外情報モニターやショーウィンドウ方式など施設外からも情報が確認できるよう配慮
- 木曽地域産の木材を活用し、木曽地域の魅力を発信
  - ・ 内装、テーブル、イスなど調度品への積極的な地域産材の活用

- 子どもや高齢者、障がい者、外国人など誰もが利用しやすいユニバーサルデザインに配慮
  - ・ スロープ、多目的トイレ、Wi-Fi 環境整備、和・英2か国語対応、わかりやすい施設内案内表示、車いす使用者及び歩行困難な方のための駐車区画設置など
- 落ち着いた、心地よいトイレ空間となるよう配慮
  - ・ シンプルで上質な空間となるよう色調等に配慮

### (3) 御嶽山が育んだ文化と歴史、豊かな自然を活かした様々な学びと体験促進に寄与する施設を目指す

- 火山の歴史を学べ、災害の記憶と記録を伝承し、火山防災知識を普及啓発できるよう配慮
  - ・ 地形が直感的にわかる地形図などを活用し、興味を持つきっかけとなる展示
- 御嶽山が育んだ文化と歴史、豊かな自然の魅力を様々な形で発信できるよう配慮
  - ・ 実物、レプリカの壁面展示、パネル展示など限られた展示空間を有効に活用
- 映像コンテンツ等を活用し、わかりやすく新鮮で質の高い展示となるよう配慮
  - ・ プロジェクター投影やモニターで御嶽山の春夏秋冬や星空、登山ルートなどを映像で紹介
- 低コストで実現、更新、維持が可能な展示物となるよう配慮
  - ・ 新たに撮影収集された写真や動画など随時更新可能な展示となるよう配慮
- 時代の移り変わりによる展示内容の変更への配慮
  - ・ 展示の変換性を考慮した計画とする
- 子どもや高齢者、障がい者、外国人など多様な利用者の特性に配慮した情報提供と展示に配慮
  - ・ Wi-Fi 環境整備、多言語対応、触れる展示、実験スペース（体験的展示）など
- 御嶽山火山マイスター等の活動・交流の場となるよう配慮
  - ・ 御嶽山火山マイスター等が活動・交流する場となり、来場者が互いに交流できるよう配慮

## 4 建設予定地

御岳県立公園の核心地域である御嶽山への登山道王滝口周辺、木曾郡王滝村田の原とする。

## 5 施設の概要

### (1) 機能、規模等

展示スペース	200 m <sup>2</sup> 程度
休憩、飲食スペース	100 m <sup>2</sup> 程度
トイレ（男、女、多目的）	125 m <sup>2</sup> 程度
事務室（御嶽山火山マイスター等詰所）	50 m <sup>2</sup> 程度
その他（倉庫、設備等）	25 m <sup>2</sup> 程度
合計延床面積	500 m <sup>2</sup> 程度

※延床面積は機能ごとの面積を含め基本設計を経て確定する

### (2) 建設費

3億5千万円程度

※展示スペース及び外構（周辺駐車場）の再整備を含む

※試算に基づく概算工事費であり、基本設計を経て確定する

※展示物品取得、映像コンテンツ制作等に係る経費は含まない

※建設資材価格変動等により変動の可能性がある

なお、整備にあたっては、県民や企業・団体からの寄附など、多くの方に応援してもらえる仕組みを検討する。

### (3) 整備手法

- 地元自治体・関係機関等と協議・調整を行いながら進める。
- 利用者視点を反映できるよう、関係者・専門家の意見をいただきながら進める。
- プロポーザルにより設計業者を選定するなど、民間の技術的能力を活用するよう努める。

## 6 スケジュール

令和4年度の供用開始を目指す。

## 7 運営方針

- (1) 多様な主体と連携した管理運営体制を構築し、指定管理者制度を導入するなど民間の力を積極的に活用した効率的・効果的な管理運営に努める。
- (2) 開館期間は開山期間の6月～10月を基本とし、利用最盛期には開館時間を早めるなど利用者目線に立った運営に努める。閉館期間中の施設の部分的な利用等も検討し、施設の有効活用に努める。
- (3) 隣接する王滝村が運営する田の原観光センター等の周辺施設と役割分担を明確にし補完しあいながら、将来に向かって周辺の利便性向上に努める。
- (4) 関連施設、類似施設と連携し、既存の財産（展示）を活用した相互企画展、巡回展などに努める。

## 8 参考資料

### ○御嶽山ビジターセンター基本構想

令和2年（2020年）2月 長野県・木曾町・王滝村

### ○信州ネイチャーセンター基本方針

～信州の豊かな自然環境を活かしたエコツーリズムの普及・拡大を目指して～

平成30年（2018年）9月 長野県環境部自然保護課

県ホームページ：<https://www.pref.nagano.lg.jp/shizenhogo/event/documents/kihonhou sin.pdf>

### ○長野県火山防災のあり方検討会報告書

平成29年（2017年）2月 長野県火山防災のあり方検討会

県ホームページ：<https://www.pref.nagano.lg.jp/bosai/kurashi/shobo/bosai/bosai/kazanar ikata/documents/2017ar ikatahoukokusyo.pdf>

### 【参考：御岳県立公園御嶽山ビジターセンター（仮称）と木曾町御嶽山ビジターセンター（仮称）比較】

#### ○御嶽山ビジターセンター基本構想（案）

区分	整備主体	主な対象	開館期間	御岳 県立公園	火山 研究施設	御嶽山火山 マイスター	御嶽山 眺望
御岳県立公園 御嶽山V.C(仮称) 王滝村田の原	長野県	公園利用者 登山者 学習者	6～10月	○	×	現場詰所 解説等	○
木曾町 御嶽山V.C(仮称) 道の駅「三岳」	木曾町	観光客 地域住民 学習者	通年	×	○	活動拠点 人材育成	×

#### ○信州ネイチャーセンター基本方針の機能

区分	情報発信 ・提供	自然及び 文化・歴史 等の解説	自然体験	自然環境 保全	地域関係者 の活動・ 交流拠点	休憩・ 退避所 提供	調査・ 研究支援
御岳県立公園 御嶽山V.C(仮称) 王滝村田の原	○	○	○	○	○ 現場詰所	○ 自然公園	○ 現地調査補助
木曾町 御嶽山V.C(仮称) 道の駅「三岳」	○	○	×	×	◎ 地域住民含む	△ 道の駅	◎ 火山研究

### 【参考：観光地利用者統計調査結果】

#### ○延べ利用者数（百人）

年(1～12月)	平成24年 (2012年)	平成25年 (2013年)	平成26年 (2014年)	平成27年 (2015年)	平成28年 (2016年)	平成29年 (2017年)	平成30年 (2018年)
王滝村 御岳山	606	650	471	85	159	150	173